

観光英語（9）：神奈川県観光名所、三溪園、江の島などに見られる案内板の英語

福島 一人

Tourism English (9) : The English Found on Signs in Popular Tourist Sites, the *Sankei-en*, Enoshima, etc., in Kanagawa Prefecture

Kazundo Fukushima

Abstract

Because the Tokyo Olympic Games are to be held in 2020, more and more foreign tourists are expected to visit Japan. The English signs in Japan's popular tourist sites have to be increased in number and improved in quality so that the tourists will be able to enjoy fruitful and profitable trips to them.

Following Fukushima (2015.7), (2015.9). this paper, as a case study, examines the English signs found particularly in the popular tourist sites, the *Sankei-en* [-garden] in Yokohama, Enoshima [-island] in Fujisawa, the *Battleship Mikasa* and the *Perry Monument* in Yokosuka, and the *Odawara-jou* [-castle] in Odawara.

The signs discussed here are mainly those which indicate the general summarized information about the places or things concerned.

Additionally, the signs of general public notices, including other places in Kanagawa Prefecture, will also be examined.

As to the signs already existent, their words, phrases, grammar and style etc. will be examined. If there are no English signs exhibited, English signs will be suggested.

The spelling of Japanese names of the places, persons, or things follows Fukushima (2015.7), (2015.9).

1. はじめに

本稿は、事例報告として、福島（2015.7）に引き続き、観光名所、特に、横浜市三溪園、藤沢市江の島、横須賀市の三笠とペリー記念碑、小田原市小田原城に見られる英語案内板に検討を加える。

本稿では、主として、当該観光名所の包括的概略説明を行うもの（以後、「概略」とする。）に限定する。これらは、パンフレットやリーフレットと異なり、説明のスペースが限られており、観光客を積極的に誘致するものであるべき、という特殊性を有すると、本稿執筆者は考える。

既設の英語案内板については、語彙、文法、文体面と説明内容などを、観光客に対する言語サービス、ということ念頭に置き、検討を加える。

2020年に東京でのオリンピック開催が決定し、さらなる外国人観光客の増加が見込まれ、日本の名所・旧跡においては、特に国際語である英語案内板の質的1)、量的充実が望まれるようになっている。このことは、日本人観光客の増加にもつながる。

綴字面などを含めた日本語の英文字表記法は、日本語を学習する外国人と同様日本人観光客の便宜も考慮した福島(2015.7)、(2015.9)に従う。

本稿においては、現地の案内板などの問題点にはアンダーラインを引き、追加修正などの提案は太字で記す。

案内板の画像は2015.7以後に撮影したものである。

2. 現地の案内板

2. 1 横浜市三溪園

JR根岸駅からバスで10分のところにある。横浜随一の純日本庭園であり、面積は約18万平方メートル、四季を通じて花や景観を楽しめる。

1



2



生糸貿易商の原三溪が移築した多くの重要な建造物が見られる。1は大池を前に、京都の旧燈明寺から移築された重要文化財の三重塔が望める、正門近くで撮影した画像である。三溪園随一の撮影スポットと言えよう。カメラを手にした多く

の老若男女が見られる。園内には、数多くの案内板が存在する。

2は正門近くに見られる三溪園作成の「案内図」であり、「三溪園の概略」が日本語と英語で説明されている。日本語及び英語説明は以下の通りである。

三溪園は、美術愛好家として知られる、実業家(生糸貿易商)原三溪(本名 富太郎)によってつくられた広さ18万㎡の日本式庭園で、明治39年に開園しました。

この庭園の特色は、四季折々の自然の景観のなかに、京都や鎌倉などから集められた歴史的建造物が巧みに配置されていることです。これら歴史的建造物のうち10棟は、国の重要文化財、3棟は、市の有形文化財です。

Sankeien Garden is a Japanese-style garden, extending over 180,000 square meters. It was built and landscaped by Sankei Hara, a wealthy silk trading businessman who was known to be a collector of art. The garden was opened in 1906.

Historic buildings collected from Kyoto, Kamakura and the like areas are special features of this garden and are artistically arranged amid the seasonal natural landscape.

There are ten nationally designated buildings of important cultural property and three tangible cultural properties designated by the City of Yokohama.

(三溪園作成)

日本語、英語説明共に、ほぼ内容が一致する。日本語説明は2段落、英語説明は3段落からなる。日本語説明の第一段落は1文からなるが、英語説明ではそれを2つの段落に分けている。英語説明の第一段落は、2文に分け、「1906年開園」の部分を第二段落として独立させている。日本語説明の第二段落を英語説明では、2つの段落に分けている。

日本語説明はそれぞれの段落が1文から成るが、不自然さを感じない。しかし、それを英語で踏襲するならば、「文が長い」という印象をもつことを禁じ得ない。そのための分解と考えられる。

英語説明について検討を加える。

概ね、「面積など地理上の記述」→「創設者等歴史」→「誇れる具体的事物」の順に記述している。それぞれが、同じ程度に、三溪園が誇るに足ること（売り）であると一般人が感じると思えるので、この記述順について賛成できる。

以下、段落ごとに検討を加える。

Sankeien Garden is a Japanese-style garden, extending over 180,000 square meters. It was built and landscaped by Sankei Hara, a wealthy silk trading businessman who was known to be a collector of art.

福島(2015.7)、(2015.9)に従い、“**Sankei-en [-garden]**”とすることを提案する。日本語説明中の「(本名 富太郎)」を補い、また日本人名が「姓」、「名」の順であることは周知のことであるから、“**Hara Sankei (real name : Tomitarou)**”とすることを提案する。「三溪園の規模」を記す第一文は第一段落とし、独立させることを提案する。

The garden was opened in 1906.

「開園された」は「一般公開された」の内容と思えるので、それを明確にし、“**was opened to the public**”とすることを提案する。また、「三溪園の開園」は、「歴史」に関する事なので、前の段落の“It was built...a collector of art.”に続け、段落分けしないことを提案する。

Historic buildings collected from Kyoto, Kamakura and the like areas are special features of this garden and are artistically arranged amid the seasonal natural landscape.

福島(2015.7)、(2015.9)に従い、“**Kyouto**”とすることを提案する。“the”は不要であり、“**and like areas**”とするべきである。単に、「四季折々の自然」の意味であるので、そして、「色々な風景」の意味を明確にするために主要語を複数にし、“**amid seasonal lanndscapes**”とするべきである。

There are ten nationally designated buildings of important cultural property and three tangible cultural properties designated by the City of Yokohama.

「重要文化財10、有形文化財3が存在する」と簡潔にし、“**There are ten buildings designated as**

important cultural properties by the national government, and three similarly designated as tangible cultural properties by the City of Yokohama” とすることを提案する。

修正提案などを含めたものをまとめると、次の通りである。各段落の始めは、3文字分スペースを空ける。

Sankei-en [-garden] is a Japanese-style garden, extending over 180,000 square meters.

It was built and landscaped by Hara Sankei (real name: Tomitarou), a wealthy silk trading businessman who was known to be a collector of art. The garden was opened to the public in 1906.

Historic buildings collected from Kyoto, Kamakura and like areas are special features of this garden and are artistically arranged amid seasonal natural landscapes.

There are ten buildings designated as important cultural properties by the national government, and three similarly designated as tangible cultural properties by the City of Yokohama.

一般に、公衆トイレについては、“toilet”は、「仮設便所」「portable toilet」などの場合以外、避けられるようである。通常、公衆トイレは、所謂「個室」が複数存在する。2の下方に見られる図案入りの「トイレ」は、“Restrooms”とするべきである。当然、1か所しかトイレが存在しない場合も、“Restrooms”である。

3



4



3は、三溪園の中で「臨春閣」と並んで、観光客に人気がある建造物と言われる「聴秋閣」である。徳川家光が京都二条城に建て、春日局が江戸に移したとされている。国指定重要文化財である。

4は、聴秋閣の入り口に見える案内板を拡大したものである。入り口前に見られる「立ち入り禁止」の内容を、垣根の役割の竹には、「入らないでください」「KEEP OUT」、その下の敷居内側の地面には「中には入れません」「Keep off」としている。奇妙に思われるが、双方共に正しい。

例えば、観光客の通る道の両側に芝生を傷めないためのフェンスなどがあるとする。フェンスの観光客側に「フェンスの内側に入らないでください→外にいろ」の意味の「立ち入り禁止」を設置する場合、“Keep out”とするべきである。一方、観光客と反対側の芝生内部に設置する場合、「離れる」の意味の「立ち入り禁止」「Keep off」とするべきである。

渡邊敏郎他編(2003)では、「芝生への立ち入り禁止」を一律に“Keep off”としているようであるが、疑問に感じる。この問題について、神奈川県外での調査を含め、結果報告は次の機会に行いたい。

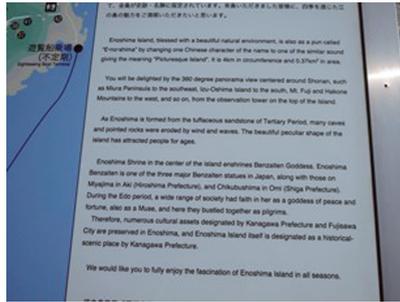
尚、聴秋閣の付近の案内板では、「聴秋閣」を単に“CHOSHUKAKU”としているが、福島(2015.7)、(2015.9)に従い、“CHOUSHUU-KAKU [-PAVILION]” とすることを提案する。

2. 2 藤沢市江の島

5



6



小田急片瀬江の島駅から徒歩10分にある。夏は片瀬海岸に海水浴を兼ねた観光客など、四季を通じて老若男女多くの観光客が訪れる。江戸時代から観光地として名高い。宿泊する客は減少しているが、日帰りの客は増加

し、5の弁財天橋を渡った所、また弁財天仲見世通りには、多くの食堂や海産物土産物屋が建ち並ぶ。

6は、弁天橋の渡り始めと渡り終えたところ2個所に存在する。藤沢市観光課作成の「江の島名勝図」であり、「江の島の概略」が日本語と英語で説明されている。日本語説明と英語説明は以下の通りである。

江の島は、またの名を「絵の島」ともいわれ、昔から風光明媚な自然環境に恵まれた周囲約4km、面積0.37km²の島です。

島の頂上部にある展望灯台からは、東南に三浦半島、南に伊豆大島、西に富士山・箱根の山々、と湘南海岸を中心に360度の大パノラマを楽しむことができます。

また江の島は、地質上、第三紀凝灰質砂岩からなる島で、このため海浸洞窟や岩嘴が多く、奇異な形をなして、古くからその名勝をうたわれています。

島の中央には江島神社があり、弁財天が祀られています。安芸（広島県）の宮島、近江（滋賀県）の竹生島にある弁財天とならんで、日本三大弁財天の一つにあげられています。江戸時代には平和の神・福の神・音楽技芸の神として、多くの人々から信仰され、大変にぎわいました。

このため、島内には神奈川県および藤沢市指定の多くの文化財が遺され、自然美と併せて、全島が史跡・名勝に指定されています。来島いただきました皆様に、四季を通じた江の島の魅力をご満喫いただきたいと思います。

Enoshima Island, blessed with a beautiful natural environment, is also as a pun called “E · no · shima” by changing one Chinese character of the name to one of the similar sound giving the meaning “Picturesque Island”. It is 4km in circumference and 0.37km² in area.

You will be delighted by the 360 degree panorama view centered around Shonan, such as Miura Peninsula to the southeast, Izu-Oshima Island to the south, Mt. Fuji and Hakone Mountains to the west, and so on, from observation tower on the top of the Island.

As Enoshima is formed from the tuffaceous sandstone of Tertiary Period, many caves and pointed rocks were eroded by wind and waves. The beautiful peculiar shape of the island has attracted people for ages.

Enoshima Shrine in the center of the island enshrines Benzaiten Goddess. Enoshima Benzaiten is one of the three Benzaiten statues in Japan, along with those on Miyajima in Aki (Hiroshima Prefecture), and Chikubushima in Omi (Shiga Prefecture). During the Edo period, a wide range of society had faith in her as

a goddess of peace and fortune, also as a Muse, and here bustled together as pilgrims.

Therefore, numerous cultural assets designated by Kanagawa Prefecture and Fujisawa City are preserved in Enoshima, and Enoshima Island itself is designated as a historical-scenic place by Kanagawa Prefecture.

We would like you to fully enjoy the fascination of Enoshima Island in all seasons.

(藤沢市観光課作成)

日本語、英語説明共に、ほぼ内容が一致する。日本語説明は2段落、英語説明は3段落からなる。英語説明の段落分けは完全に日本語説明と一致している。殆どすべてが、日本語を「和文英訳」した如き印象をもつ。従って、1文が「長すぎる」と感じられるものもある。しかし、説明文全体としては、違和感を感じられない。

英語説明について検討を加える。

概ね、「面積など地理上の記述」→「美観を有するに至った理由」→「誇れる具体的事物」の順に記述している。それぞれが同じ程度に、江の島が誇るに足ること（売り）と一般人が感じると思えることなので、この記述順について賛成できる。但し、「美観を有するに至った理由」は専門的過ぎると感じられ、削除可能とも思える。

以下、段落ごとに検討する。

Enoshima Island, blessed with a beautiful natural environment, is also as a pun called “E · no · shima” by changing one Chinese character of the name to one of the similar sound giving the meaning “Picturesque Island”. It is 4km in circumference and 0.37km² in area.

福島（2015.7）、（2015.9）に従い、“**Eno-shima [-island]**”を提案する。分節はハイフンで行うのが普通であるので、“**E-no-shima**”とする。最初の文の細かな音節区分以外は、以下、「江の島」を“**Eno-shima**”と綴ることを提案する。“giving...”が、“sound”を限定修飾していると思ひ、定冠詞を使用したであろうが、“giving...”は不定代名詞“one”を修飾する。従って、定冠詞を削除し、“**of similar sound**”とするべきである。

You will be delighted by the 360 degree panorama view centered around Shonan, such as Miura Peninsula to the southeast, Izu-Oshima Island to the south, Mt. Fuji and Hakone Mountains to the west, and so on, from observation tower on the top of the Island.

「パノラマ（のような眺め）」は“**panoramic view**”とするべきである。“**Shounan**”とする。“**Izu Oo-shima**”とする。日本語に対応させたのであろうが、文が長過ぎる。“and so on.”で完結させる。また、定冠詞を使用し、かつ、「展望灯台」を明示し、“**...and so on. You will enjoy the view from the lighthouse observatory....**”とすることを提案する。

As Enoshima is formed from the tuffaceous sandstone of Tertiary Period, many caves and pointed rocks were eroded by wind and waves. The beautiful peculiar shape of the island has attracted people for ages.

「風雨による浸食をこれまで受けてきている」の意味であるので、“**have been eroded**”とするべきである。

Enoshima Shrine in the center of the island enshrines Benzaiten Goddess. Enoshima Benzaiten is one of the three Benzaiten statues in Japan, along with those on Miyajima in Aki (Hiroshima Prefecture), and Chikubushima in Omi (Shiga Prefecture). During the Edo period, a wide range of society had faith in her as a goddess of peace and fortune, also as a Muse, and here bustled together as pilgrims.

定冠詞を補い、“**the Benzaiten Goddess**” とすべきである。福島 (2015.7)、(2015.9) に従い、“**The Enoshima-jinja [-shrine]**”、“**Miya-jima [-island]**”、“**Chikubu-shima**”、“**Oomi**” とすることを提案する。“and”を使用した順接で結果を表しているのであろうが、“**because**”で理由を明確にする。また、「多くの人々を」を簡単に“**a wide range of people**”とする。“also as a Muse”は冗長に感じられるので省略し、“**a wide range of people bustled together here as pilgrims because they had faith in her as a goddess of peace, fortune and art.**” とすることを提案する。

Therefore, numerous cultural assets designated by Kanagawa Prefecture and Fujisawa City are preserved in Enoshima, and Enoshima Island itself is designated as a historical-scenic place by Kanagawa Prefecture.

2文にし、“**...in Eno-shima. Eno-shima itself is...**” とすることを提案する。

We would like you to fully enjoy the fascination of Enoshima Island in all seasons.

原文の分離不定詞に抵抗を感じられない。

修正提案などを含めたものをまとめると、次の通りである。各段落の始めは、3文字分スペースを空ける。

Eno-shima [-island], blessed with a beautiful natural environment, is also as a pun called “E-no-shima” by changing one Chinese character of the name to one of similar sound giving the meaning “Picturesque Island”. It is 4km in circumference and 0.37km² in area.

You will be delighted by the 360 degree panoramic view centered around Shounan, such as Miura Peninsula to the southeast, Izu Oo-shima Island to the south, Mt. Fuji and Hakone Mountains to the west, and so on. You will enjoy the view from the lighthouse observatory on the top of the island

As Enoshima is formed from the tuffaceous sandstone of Tertiary Period, many caves and pointed rocks have been eroded by wind and waves. The beautiful peculiar shape of the island has attracted people for ages.

The *Enoshima-jinja* [-shrine] in the center of the island enshrines the Benzaiten Goddess. Enoshima Benzaiten is one of the three Benzaiten statues in Japan, along with those on Miya-jima [-island] in Aki (Hiroshima Prefecture), and Chikubu-shima in Oomi (Shiga Prefecture). During the Edo period, a wide range of people bustled together here as pilgrims because they had faith in her as a goddess of peace, fortune and art.

Therefore, numerous cultural assets designated by Kanagawa Prefecture and Fujisawa City are preserved in Eno-shima. Eno-shima itself is designated as a historical-scenic place by Kanagawa Prefecture.

We would like you to fully enjoy the fascination of Eno-shima in all seasons.

7は、展望灯台入り口に見られる。「ボール遊びはご遠慮下さい。」を“Do not play ball game.”としている。可算名詞であるので“Do not play ball **games** .” とすべきである。「飲食物の持ち込み

7



はご遠慮下さい。」“Do not eat and drink here.”が見られるが、日本語、英語共に、問題がある。展望灯台付近に自販機が見られるし、飲み物を持参することまでも禁じることが奇妙であるので、削除する。「飲食禁止」とし、完全否定であるので、“Do not eat or drink here.”とすべきである。

2. 3 横須賀市三笠公園内戦艦三笠

三笠は、京浜急行横須賀中央駅から徒歩約15分の三笠公園内に保存されている。画像8参照。1921年のワシントン軍縮条約で廃艦とされ、三笠保存会により保存され、1961年に改装復元された。艦内には、明治時代からの日本海軍史、海戦史、内外の著名軍人、など多くの日本語・英語説明が記述された案内板が見られる。

8



9



9は8の記念艦三笠の右端艦尾近くに設置されている案内板である。「三笠保存会」の作成と思われる。表題「記念艦三笠の由来」の日本語案内板の上に

“HISTORY OF THE MEMORIAL BATTLESHIP MIKASA”という英語案内板が設置されている。長い文からなる、2文で「三笠の概略」が説明されている。日本語説明と英語説明は以下の通りである。

記念艦三笠の由来

三笠は1904年（明治37年）2月に始まった日露戦争において、東郷大將が率いる連合艦隊の旗艦として、終始敵の集中砲火の中で奮戦し、同年8月10日の黄海海戦では露国東洋艦隊に大打撃を与え、遂に1905年（明治38年）5月27日の日本海海戦では、遠来のバルチック艦隊を全滅させる偉功をたてた日本海軍の代表的な軍艦であります。

日本海海戦の大勝利は、世界の流れを大きく変えたと言われますが、この偉業を成し遂げた日本民族の誇りと自信を新たにするとともに、その栄光を永く後世に伝えるために、その「シンボル」として、三笠は1926年（対象15年）以来収蔵する多数の記念品とともに、ここ白浜海岸に保存され、多くの人に親しまれてきました。

HISTORY OF THE MEMORIAL BATTLESHIP MIKASA

The Battleship Mikasa, the flagship of Admiral Togo, Commander-in-chief of Combined Fleet, at the start of Russo-Japanese War in February 1904, fought hard from the beginning to the end under concentrated gun

fire from the enemy, and on 10 August of the same year, struck a great blow to the Russian-Eastern Fleet during the Battle of the Yellow Sea.

On 27 May 1905, during the naval battle of Japan Sea which completely annihilated the far-traveled Baltic Fleet, established the tradition of the Japanese Imperial Navy Battleships.

The great victory of the Battle of Japan Sea not only greatly change the course of world history but this great accomplishment also boosted the pride and confidence of the Japanese people. The Mikasa provided future generations with ever-lasting glory and as a “Symbol”, along with other memorials, she was preserved here at the Shirahama Beach in 1926. Since then, she has become a familiar landmark to numerous people.

(三笠保存会作成)

日本語説明は2つの段落が、それぞれ、1文からなる。日本人にも読みにくく、修飾部分を文として独立させるなど修正の必要があろう。

日本語説明に対応する英語説明について、全体的に記述内容、記述順、共に、英語説明と平行している。しかし、日本語説明における第一段落を英語説明では2つの段落に分けている。また、日本語説明の第二段落は、3つの英文に分けている。

英語説明について検討を加える。

日本語説明に合わせ、「三笠の誕生」→「黄海海戦での活躍」→「バルチック艦隊撃破とその意義」→「三笠の保存」の順に記述している。時系列に、日本人にとって三笠が誇るに足ることを、外国人からすると大袈裟とも思えるほどに記述している。しかし、単に、「記念艦三笠」“THE MEMORIAL BATTLESHIP MIKASA”という表題にしても良いほどに、「三笠の概略」を必要かつ、十分に述べている点で評価できる。

以下、段落ごとに検討する。

HISTORY OF THE MEMORIAL BATTLESHIP MIKASA

表題は、単に、“THE MEMORIAL BATTLESHIP *MIKASA*” とすることを提案する。以下、福島(2015.7)、(2015.9)に従い、「三笠」は“*Mikasa*”と、イタリック体にする。

The Battleship Mikasa, the flagship of Admiral Togo, Commander-in-chief of Combined Fleet, at the start of Russo-Japanese War in February 1904, fought hard from the beginning to the end under concentrated gun fire from the enemy, and on 10 August of the same year, struck a great blow to the Russian-Eastern Fleet during the Battle of the Yellow Sea.

第一段落の英文は1文からなる。長すぎる印象をもつ。少なくとも、「三笠が1904年2月に始まった日露戦争で旗艦となった。」「終始、集中砲火を浴びながら奮戦し、同年8月の黄海海戦での活躍」という内容の2文に分け、かつ、段落を分けることを提案する。

「東郷」を“*Tougou*”と表記し、第1文は、“The Battleship *Mikasa* was used as the flagship of Admiral *Tougou*, ..., at the start of Russo-Japanese War in February 1904.”とする。第2文は、“beginning”と綴りミスを修正し、“gunfire”と1語にし、一般的に“August 10”とし、“She fought hard from the beginning to the end ... during the Battle of the Yellow Sea.”とすることを提案する。第二文は、

さらに2つに分けた方が良いかもしれない。

On 27 May 1905, during the naval battle of Japan Sea which completely annihilated the far-traveled Baltic Fleet, established the tradition of the Japanese Imperial Navy Battleships.

原文は段落をわけているが、日本語に対応させて、上の段落と併せて、1文を構成させており奇妙に感じる。文として独立させる必要があるだろう。また、「1905年5月27日の日本海海戦ではバルチック艦隊を全滅させ、日本海軍戦艦の名声を打ち立てた」としたほうが、「... established the tradition ...」より、意味が明確になると思える。

前の文に合わせて、「May 27」とし、「日本海海戦」を“the naval battle in the Japan Sea”とし、「戦艦」は普通名詞であるので、小文字で始め、“On May 27 1905, during the naval battle in Japan Sea, the *Mikasa* completely annihilated the far-traveled Baltic Fleet, and established the reputation of the Japanese Imperial Navy battleships”とすることを提案する。

The great victory of the Battle of Japan Sea not only greatly change the course of world history but this great accomplishment also boosted the pride and confidence of the Japanese people. The Mikasa provided future generations with ever-lasting glory and as a “Symbol”, along with other memorials, she was preserved here at the Shirahama Beach in 1926. Since then, she has become a familiar landmark to numerous people.

第一文は、“not only... but also”構造を使用しているが、やや文語調すぎるように感じられる。2文に分け、“The great victory of the Battle in the Japan Sea greatly changed the course of world history. This accomplishment also boosted the pride and confidence of the Japanese people.”とする。原文の、綴りの誤りと思える“change”は“changed”と修正する。第二文も、2文に分け、“along with ...”を前に移動し、“The *Mikasa*, along with other memorials, provided future generations with a symbol of Japan’s everlasting glory.”と“She was preserved here at the Shirahama Beach in 1926.”とし、後者を別段落にすることを提案する。

現在も“landmark”であることを明示するために“has been”とすることを提案する。

修正提案などを含めたものをまとめると、次の通りである。各段落の始めは、3文字分スペースを空ける。

THE MEMORIAL BATTLESHIP MIKASA

The Battleship *Mikasa* was used as the flagship of Admiral Tougou, Commander-in-chief of Combined Fleet, at the start of Russo-Japanese War in February 1904.

She fought hard from the beginning to the end under concentrated gunfire from the enemy, and on August 10 of the same year, struck a great blow to the Russian-Eastern Fleet during the Battle of the Yellow Sea.

On May 27 1905, during the naval battle in Japan Sea, the *Mikasa* completely annihilated the far-traveled Baltic Fleet, and established the reputation of the Japanese Imperial Navy battleships

The great victory of the Battle in the Japan Sea greatly changed the course of world history. This accomplishment also boosted the pride and confidence of the Japanese people. The *Mikasa*, along with other memorials, provided future generations with a symbol of Japan’s everlasting glory.

She was preserved here at the Shirahama Beach in 1926. Since then, she has been a familiar

landmark to numerous people.

2. 4 久里浜ペリー公園内ペリー上陸記念碑

画像10のペリー上陸記念碑は京急久里浜駅より徒歩約15分、久里浜海岸に面したペリー公園にある。高さ10メートルの根府川石製である。公園内には、ペリー記念館も存在し、ペリー来航についての歴史資料が見られる。米友協会作成の案内板であろうか。

10



11



12



記念碑の下には11の日本語案内板と12の英語案内板が張られている。古いもので、摩耗が目立つ。日本語案内板、英語案内板は次の通りである。

1853年7月3日、浦賀沖に来航したアメリカ合衆国東インド艦隊司令長官 M.C. ペリー (Matthew C. Perry) は、7月14日、ここ久里浜の海岸に上陸し、大統領フィルモアの親書を江戸幕府に渡した。翌年、神奈川において日米両国間に和親条約が締結された。この一連の出来事は、幕府支配のもとに鎖国を続けていた日本を、世界へと引き戻す原動力となった。

ペリー来航より43年後の1901年7月14日、米友協会の手によって、日本開国ゆかりの地として、ここに記念碑が建てられた。

On July 3, 1853, Commodore Matthew Calbraith Perry, USN, Commander in Chief, the United States Naval Forces East India, China and Japan Seas, who anchored oiling of Uraga, landed here Kurihama Beach and delivered the letter of President Filmore to the then Japanese government. Next year, the U.S. Japan Treaty of Peace and Amity had been concluded at Kanagawa. Such series of events became motive power to bring back Japan, who unilaterally shut its diplomatic door to other countries by the then Japanese government, to the world.

This monument commemorating the landing of Commodore Perry was erected here, the place relative to the opening country of Japan, on July 14, 1901 by America's Association, 43 years after the landing.

(米友協会作成?)

日本語説明は2つの段落が、4文からなる。それぞれがとても読み易い文である。第二段落は1文からなるが、不自然さは感じられない。

英語説明について、全体的に記述内容、記述順、共に、日本語説明とほぼ平行している。日本語説明も英語説明も第一段落は、3文から、第二段落は、1文から構成されている。以下、英語説明に検討を加える。

On July 3, 1853, Commodore Matthew Calbraith Perry, USN, Commander · in · Chief, the United States Naval Forces East India, China and Japan Seas, who anchored oiling of Uruga, landed here Kurihama Beach and delivered the letter of President Filmore to the then Japanese government. Next year, the U.S. Japan Treaty of Peace and Amity had been concluded at Kanagawa. Such series of events became motive power to bring back Japan, who unilaterally shut its diplomatic door to other countries by the then Japanese government, to the world.

日本語に合わせ、第一文を1つの文で記している。日本語中には存在しない「(歴史的には「薪水給与を受けるため」とするべきであろう)浦賀に停泊した。」が含まれている。ペリーの役職の説明が長いので、「浦賀に停泊した。」で文を終わらせる。そして、「久里浜に上陸し親書を手渡した。」という文を続けたほうが良いであろう。第一文は、史実に合わせ「薪水給与を受けるために浦賀沖に停泊した」とする。「司令長官」をハイフンで接続し、“**Commander-in-chief**”とし、“**…Commander-in-chief of the United States Naval Forces in East India, China and the Japan seas, anchored off the coast of Uruga for replenishing fuel and water.**”とする。そして、「久里浜に上陸し、江戸幕府にフィルモアの親書を渡した」を続け、“**He landed here at Kurihama Beach and delivered a letter from President Filmore to the Edo shogunate.**”とすることを提案する。

過去における「次の年」の意味であるから、“**The following year**”とするべきである。所謂、「日米和親条約」の意味であるので引用符を加える。出来事順に記述しているので、時制は単純過去にし、前置詞を“**in**”とし、“**The following year, the “U.S.-Japan Treaty of Peace and Amity” was concluded in Kanagawa.**”とするべきである。

歴史上、日米和親条約の締結が、開国への直接的誘因である。故に、“Such series of events”より、単に、“**This**”とするべきであろう。そして、前の文の修正箇所“**the Edo shogunate**”から、「幕府支配のもと...」の内容は明白であるので省略し、“**This was the motivation for Japan to cease its isolationist policy and open up to international cultural exchange.**”とすることを提案する。

This monument commemorating the landing of Commodore Perry was erected here, the place relative to the opening country of Japan, on July 14, 1901 by America’s Association, 43 years after the landing..

“here”と同格であるので、“**at the place**”とするべきである。「ゆかりの」ということで、“relative to...”としているが、漠然としている。“**remembered in connection with...**”とする方が明確になるので、これを提案する。「日本開国」を“the opening country of Japan”としている。「開国」を“open country”とし、それをthe -ing of 構造にしたのであろうが、文法的に誤りである。“the opening of Japan”とするべきである。従って、“**at the place remembered in connection with the opening of Japan**”とする。「米友協会」は引用符で囲んだほうが良いかもしれない。ところで、「ペリー来航より...」と11の日本語案内板に見られるが、12の英語案内板の如く、「ペリー上陸より...」とするべきである。「(ペリー)の上陸」を明確にし、“**after his landing**”とすることを提案する。

修正提案などを含めたものをまとめると、次の通りである。各段落の始めは、3文字分スペースを空ける。

On July 3, 1853, Commodore Matthew Calbraith Perry, USN, Commander-in-chief of the United States Naval Forces in East India, China and the Japan seas, anchored off the coast of Uruga for replenishing fuel and water. He landed here at Kurihama Beach and delivered a letter from President Filmore to the Edo

shogunate.

The following year, the “U.S.-Japan Treaty of Peace and Amity” was concluded in Kanagawa. This was the motivation for Japan to cease its isolationist policy and open up to international cultural exchange.

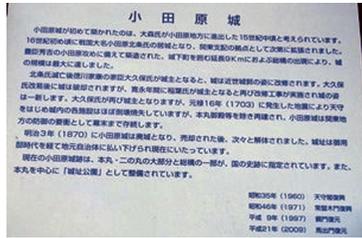
This monument commemorating the landing of Commodore Perry was erected here, at the place remembered in connection with the opening of Japan, on July 14, 1901 by “America’s Association,” 43 years after his landing.

2. 5 小田原市小田原城

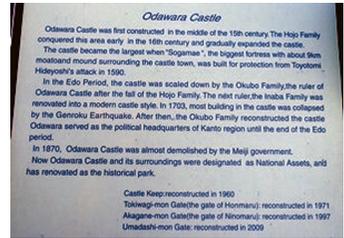
13



14



15



画像 13 の戦後復元の天守を有する小田原城は、JR 小田原駅から徒歩 15 分に存在する。途中多くの海産物食堂が見られる。14、15 は、堀の前に見られる「小田原城案内図」の案内板に記されている日本語説明と英語説明である。小田原白梅ライオンズクラブ作成の案内板である。

小田原城

小田原城が初めて築かれたのは、大森氏が小田原地方に進出した 15 世紀中頃と考えられています。16 世紀初め頃に戦国大名小田原北条氏の居城となり、関東支配の拠点として次第に拡張されました。豊臣秀吉の小田原攻めに備えて築造された、城下町を囲む延長 9km におよぶ総構の出現により、城の規模は最大に達しました。

北条氏滅亡後徳川家康の家臣大久保氏が城主となると、城は近世城郭の姿に改修されます。大久保氏改易後に城は破却されますが、寛永年間に稲葉氏が城主となると再び改修工事が実施され城の姿は一新します。大久保氏が再び城主となりますが、元禄 16 年 (1703) に発生した地震により天守をはじめ城内の各施設は倒壊焼失していますが、本丸御殿等を除き再建され、小田原城は関東地方の防御の要衝として幕末まで存続します。

明治 3 年 (1870) に小田原城は廃城となり、売却された後、次々と解体されました。城址は御用邸時代を経て地元自治体に払い下げられ現在にいたっています。

現在の小田原城跡は、本丸・二の丸の大部分と総構の一部が、国の史跡に指定されています。また、本丸を中心に「城址公園」として整備されています。

- 昭和 35 年 (1960) 天守閣復興
- 昭和 46 年 (1971) 常盤木門復興
- 平成 9 年 (1997) 銅門復元
- 平成 21 年 (2009) 馬出門復元

Odawara Castle

Odawara Castle was first constructed in the middle of the 15th century. The Hojo Family conquered this area early in the 16th century and gradually expanded the castle.

The castle became the largest when “Sogamae”, the biggest fortress with about 9km moat and mound surrounding the castle town, was built for protection from Toyotomi Hideyoshi's attack in 1590.

In the Edo Period, the castle was scaled down by the Okubo Family, the ruler of Odawara Castle after the fall of the Hojo Family. The next ruler, the Inaba Family was renovated into a modern castle style. In 1703, most building in the castle was collapsed by the Genroku Earthquake. After then, the Okubo Family reconstructed the castle Odawara served as the political headquarters of Kanto region until the end of the Edo period.

In 1870, Odawara Castle was almost demolished by the Meiji government.

Now Odawara Castle and its surroundings were designated as National Assets, and has renovated as the historical park.

Castle Keep: reconstructed in 1960

Tokiwagi-mon Gate (the gate of Honmaru) : reconstructed in 1971

Akagane-mon Gate (the gate of Ninomaru) :reconstructed in 1997

Umadashi-mon Gate: reconstructed in 2009:

(小田原白梅ライオンズクラブ作成)

日本語説明文中の、城郭の専門家でなければ読むことが不能と思える「総構」は、振り仮名を加え、「総構（そうがまえ）」と表記すべきである。同様に、「常盤木門（ときわぎもん）」、「銅門（あかがねもん）」、「馬出門（うまだしもん）」とするべきである。「復興」と「復元」を分けている。前者は元の工法や建築資材と異なり、後者は同じ、という意味で区分していると思われるが、一般観光客にはこの区別は不要と思われる。特定の建造物などの再建には、「復興」より、むしろ、「復元」、あるいは、「再建」に統一することを提案する。

英語説明に検討を加える。

城郭のほとんどすべてが戦後に復元されたものであるため、日本語説明文とほぼ一致させ、歴史説明について多く記述されている。城郭内に国宝や重要文化財に指定されているものが存在しないので、これらの記述のみで十分であろう。

他の城郭と同様、「最初の築城」→「歴代城主と城郭の変化」→「明治時代の解体」→「現在の城郭」と記述している。豊臣秀吉の小田原攻めについて、有名な史実であるので、英語説明で段落を変えていることに賛成できる。

他の名所の案内板と同様、日本語説明で述べられている事柄のいくつかが省略されている。最初に築城したと思われる大森氏、城主になった大久保氏が徳川家康の家臣であったことなどが省略されている。後者は重要なことであるので、加えるべきと思われる。

Odawara Castle

Odawara Castle was first constructed in the middle of the 15th century. The Hojo Family conquered this

area early in the 16th century and gradually expanded the castle.

表題の“*Odawara Castle*”のイタリック体使用は、福島(2015.7)、(2015.9)の提案と同じである。さらに、“*Odawara-jou* [-castle]、とし、説明文中では、“**The *Odawara-jou***”とすること、また、「北条氏」「Hojo Family”を“**Houjou Clan**”とすることを提案する。

The castle became the largest when“*Sogamae*”, the biggest fortress with about 9km moatoand mound surrounding the castle town, was built for protection from Toyotomi Hideyoshi’ s attack in 1590.

日本語説明の「...城の規模は最大に達しました」に相当する表現にし、“**reached its largest size**”とする。“*the sogamae*”とする。日本語説明の内容的には、「巨大な」である。形容詞は文語調の“large”を使用し、“**an extremely large fortress**”とすることを提案する。“moatoand”は、綴りの誤りであり、“**moat and**”とするべきでる。「小田原攻めからの防衛のため」という目的を明確にし、“**to protect against**”とすることを提案する。

In the Edo Period, the castle was scaled down by the Okubo Family, the ruler of Odawara Castle after the fall of the Hojo Family. The next ruler, the Inaba Family was renovated into a modern castle style. In 1703, most building in the castle was collapsed by the Genroku Earthquake. After then, the Okubo Family reconstructed the castle Odawara served as the political headquarters of Kanto region until the end of the Edo period.

“**Ookubo**” 3) とし、また、徳川家康の家臣であったことは重要であるので、“**the Ookubo Clan (Tokugawa Ieyasu’s vassalage)**”とすることを提案する。“**the Houjou Clan**”とする。“*Odawara-jou*”とイタリック体にする。日本語説明中の「大久保氏改易後に城は破却されます。」は英語説明には存在しないが、省略してもよいと思われる。“**the Inaba Clan**”とする。「稲葉氏が城を一新した。」の内容であるので、“**renovated it into**”とするべきである。日本語説明は、「稲葉氏の後、大久保氏が再び城主になる」という内容である。そして、「1703年の元禄地震により、ほとんどの建造物が倒壊焼失した」という内容である。「元禄」は江戸時代の年号であり、「元禄地震」を構成するので、イタリック体を用いる。日本語説明文中の重要な「大久保氏が再び城主になると」を補う。“**...most buildings...were...**”と訂正する。“collapse”は自動詞であるので、能動態にする。“**After the Ookubo Clan was reinstated, the Genroku Earthquake struck in 1703. Most buildings in the castle collapsed or burned down.**”とすることを提案する。そして、「城内のほとんどの施設は倒壊焼失...」を独立させている。日本語説明の内容の「大久保氏が再建した後、小田原城は...」に合わせ、“**After the Ookubo Clan reconstructed the Odawara-jou, it served as the political headquarter of Kantou region.**”とすることを提案する。

In 1870, Odawara Castle was almost demolished by the Meiji government.

日本語説明をかなり省略しており、内容的にも矛盾している。“almost”の使用にも疑問を感じる。日本語説明に合わせれば、“**At the beginning of the Meiji era, the *Odawara-jou* was scheduled to be dismantled like many other castles. It was sold at auction and many structures in the castle were broken. After its ruins had been used as an Imperial villa for a while, its ownership was transferred to the local government.**”を提案することになる。

Now Odawara Castle and its surroundings were designated as National Assets, and has renovated as the

historical park.

英語説明は、日本語説明と矛盾している。日本語説明に合わせ、“**Now the locations of the original structures in the *Odawara-jou*, including most parts of the *hon-maru* (main bailey) , the *ni-no-maru* (second bailey) , and a part of the *sougamae*, are designated as national historic sites. The *hon-maru* and its surroundings have been renovated into a historical park.**” とすることを提案する。

Castle Keep: reconstructed in 1960

Tokiwagi-mon Gate (the gate of Honmaru) : reconstructed in 1971

Akagane-mon Gate (the gate of Ninomaru) :reconstructed in 1997

Umadashi-mon Gate: reconstructed in 2009:

福島 (2015.1)、(2015.7)、(2015.9) に従い、それぞれ、“*Tenshu* (castle tower) ”、“*Tokiwagi-mon* (“ever green” gate) of *Hon-maru*”、“*Akagane-mon* (“copper” gate) of *Ni-no-maru*”、“*Umadashi-mon* [-gate]” とすることを提案する。

修正提案などを含めたものをまとめると、次の通りである。各段落の始めは、3文字分スペースを空ける。

***Odawara-jou* [-castle]**

The *Odawara-jou* was first constructed in the middle of the 15th century. The Houjou Clan conquered this area early in the 16th century and gradually expanded the castle.

The castle reached its largest size when the *sougamae*, an extremely large fortress with about 9km moat and mound surrounding the castle town, was built to protect from Toyotomi Hideyoshi’s attack in 1590.

In the Edo Period, the castle was scaled down by the Okubo Clan (Tokugawa Ieyasu’s vassalage), the ruler of *Odawara-jou* after the fall of the Houjou Clan. The next ruler, the Inaba Clan renovated it into a modern castle style. After the Ookubo Clan was reinstated, the *Genroku Earthquake* struck in 1703. Most buildings in the castle collapsed or burned down. After the Ookubo Clan reconstructed the *Odawara-jou*, it served as the political headquarter of Kantou region until the end of the Edo period.

At the beginning of the Meiji era, the *Odawara-jou* was scheduled to be dismantled like many other castles. It was sold at auction and many structures in the castle were broken. After its ruins had been used as an Imperial villa for a while, its ownership was transferred to the local government.

Now the locations of the original structures in the *Odawara-jou*, including most parts of the *hon-maru* (main bailey), the *ni-no-maru* (second bailey), and a part of the *sougamae*, are designated as national historic sites. The *hon-maru* and its surroundings have been renovated into a historical park.

***Tenshu* (the castle tower) : reconstructed in 1960**

***Tokiwagi-mon* [-gate] (the gate of *Hon-maru*) : reconstructed in 1971**

***Akagane-mon* [-gate] (the gate of *Ni-no-maru*) ::reconstructed in 1997**

***Umadashi-mon* [-gate] : reconstructed in 2009:**

16



画像 13 の天守に入る階段の上り口に 16 の案内板が見られる。天守の説明と入場料を記す日本語と英語が存在する。

図表で示された入場料の説明には、若干問題が感じられる。

福島 (2013.1) を参考にし、検討を加える。

「天守閣入場料」という表題を単に“Admission Fee”としている。これは、日本語に合わせて詳しく、「Admission Fee to Castle Tower」とすることを提案する。「個人」を“Individual”とし、「団体 (30人以上)」を“Group (more than 30 people)”としている。後者は、「30人を含める」意味である。また、「ひとり当たりの価格」を明示し、“30 or more people (per person)”とすることを提案する。「大人」を“Adult Over 15 years old”としている。しかし、その下は、料金案内板対立語としてよく見られる「小人」ではなく「小・中学生」を項目とし、“Elementary/ Junior high”としている。前者を「大人 (高校生以上)」「Adults (High-school students and older)」、後者を「小人 (小・中学生)」「Children (Elementary and Junior high school students)」とすることを提案する。双方の“and”は“or”とすることもある。「幼児」を“Infants”としている。欄外には、「● 開館時間 / 午前 9 時～午後 5 時 (入場締切午後 4 時 30 分)」を“Hours : 9:00~17:00 (enter before 16:30)”としている。特に、米国人は日本人ほど二四時制に馴染みがないことも考慮し、また、スワンダッシュではなくダッシュを用い、“Business Hours : 9:00 am—5:00 pm (Please enter before 4:30 pm)”とすることを提案する。

同一案内板上の「天守 (天守閣)」の日本語と英語の説明文についても検討を加える。福島 (2011.1) ~ (2014.1) において、日本の城郭に見られる案内板に検討を加えてきたので、興味深い。

日本語説明と英語説明は次の通りである。

小田原城天守閣

天守閣は、城の象徴として本丸に構えられたものです。

寛永 11 年 (1634) には、三代将軍徳川家光が小田原城の天守閣に登り、武具を見たり展望を楽しんだという記録が残っています。

元禄 16 年の大地震のときには、小田原城のほとんどの建物が倒壊・焼失してしまいましたが、天守閣は宝永 3 年 (1706) に再建され、明治 3 年 (1870) の廃城まで小田原のシンボルとしてそびえていました。

現在の天守閣は昭和 35 年 (1960) 5 月に、市制 20 周年の記念事業として復興したもので、宝永時代の再建時に作成された引き図 (設計図) や模型を参考に、鉄筋コンクリートで外観復元したものです。

天守閣の内部は、古文書、絵画、武具、刀剣などの歴史資料の展示室となっています。標高 60 メートルの最上階からは相模湾が一望でき、良く晴れた日には房総半島まで見ることができます。

Castle Keep

Castle Keep is the symbol of the castle.

Genroku earthquake of 1703 destroyed the Castle Keep and other structures. The Castle Keep was rebuilt in

1706, and had been stood as the symbol of Odawara Castle until the dismantlement in 1870.

The present Castle Keep was reconstructed by reinforced concrete in 1960. Inside are historical exhibits and armors, swords, drawings and ancient documents. At the top floor, over 60m, you can enjoy the beautiful view of Sagami bay.

(小田原市作成)

多くの他の名所の案内板と同様、日本語説明のいくつかの部分が英語説明では省略されている。

「天守の意義」→「歴史」→「現在の天守と見どころ」と、説明している。2番目3番目の記述は、他の城郭の天守とも共通するものである。

日本語説明の、第二段落の徳川家光来城の記述、第四段落の「... 市制 20 周年の記念事業として復興したもので ... を参考にして」は英語説明に存在しない。しかし、せっかく画像 16 に図面が掲載されているので、「1706 年の再建時の設計図面を参考にして」の内容は英語説明に加えるべきであろう。

Castle Keep

福島 (2015.1) では、城郭の部位について英語表記の提案を行った。「天守 (天守閣)」については、国宝・重要文化財に指定されているものも、現地の案内板上の英語表記は様々であり、“**castle tower**” に統一することを提案した。福島 (2015.1) の提案に従い、表題を “**Tenshu (castle tower)**” とすることを提案する。尚、福島 (2011.1)、(2011.7)、(2012.7)、(2013.1) では、“**castle keep**” としてきた。

Castle Keep is the symbol of the castle.

「天守」は表題に合わせ、定冠詞を加え、“**The tenshu**” とする。次の段落に「他の建造物と共に...」という内容の文が続くので、一つの集合体であることを明確にして、“**castle complex**” とする。やや婉曲的にし、“**is said to be**” とする。この段落を、“**The tenshu in hon-maru (main bailey) is said to be the symbol of the castle complex.**” とすることを提案する。

Genroku earthquake of 1703 destroyed the Castle Keep and other structures. The Castle Keep was rebuilt in 1706, and had been stood as the symbol of Odawara Castle until the dismantlement in 1870.

「天守」が話題の焦点であるので、指示代名詞で表し、態を転換する。「元禄地震」は有名であり、構成素を大文字で始める。“**had been stood**” は、文法的誤りである。能動態に変え、全体が口語調であるので、完了相を使用せず、単純過去とする。“**the Odawara-jou [-castle]**” とする。口語調にし、“**until...**” を節化する。この段落を、“**It was destroyed by the Genroku Earthquake in 1703, together with other structures. The tenshu was rebuilt in 1706, and thereafter stood high as the symbol of the Odawara-jou [-castle] until it was dismantled in 1870.**” とすることを提案する。

The present Castle Keep was reconstructed by reinforced concrete in 1960. Inside are historical exhibits and armors, swords, drawings and ancient documents. At the top floor, over 60m, you can enjoy the beautiful view of Sagami bay.

「現在の天守」は、“**The present tenshu**” とする。コロケーションとしては、“**reconstructed of**”

が普通である。画像16の如く、説明文の右側に図面が挙げられているので、「1706年の再建時の設計図面を参考にして」の内容を加えるべきであろう。不可算名詞であるので“armor”とするべきである。全体が口語調であるので、倒置構造を使用せず、“There are ... inside”とする。「海拔60 mを越える」の意味であるので、“over 60m above sea level”とする。“floor”の前置詞は、“on”が普通である。婉曲的に、“we”を使用する。「相模湾」を“Sagami Bay”とする。この段落を、“The present *tenshu* was reconstructed of reinforced concrete in 1960, following the drawing (see the illustration on the right) designed for the 1706 reconstruction. There are now many historical materials exhibited inside, such as old documents, drawings, armor and swords. On the top floor, over 60m above sea level, we can enjoy the beautiful view of Sagami Bay.” とすることを提案する。

修正提案などを含めたものをまとめると、次の通りである。各段落の始めは、3文字分スペースを空ける。

Tenshu (castle tower)

The *tenshu* in *hon-maru* (main bailey) is said to be the symbol of the castle complex

It was destroyed by the *Genroku Earthquake* in 1703, together with other structures. The *tenshu* was rebuilt in 1706, and thereafter stood high as the symbol of the *Odawara-jou* [-castle] until it was dismantled in 1870.

The present *tenshu* was reconstructed of reinforced concrete in 1960, following the drawing (see the illustration on the right) designed for the 1706 reconstruction. There are now many historical materials exhibited inside, such as old documents, drawings, armor and swords. On the top floor, over 60m above sea level, we can enjoy the beautiful view of Sagami Bay.

一般に、「入場券売り場」に相当するものを、“ticket booth”、“ticket counter”、“ticket office”としている例が見られる。これらは、単に“ticket”、“tickets”でも可能である。

17



18



17は小田原城天守の建物に入ってすぐ見られる「入場券売り場」である。“TICKET OFFICE”としている。建物内部でも、会社の「…室」や大学の「研究室」の意味から使用したと思われる。

一方、富山県黒部峡谷鉄道宇奈月駅の建物に入ってすぐ見られる18の「きっぷうりば」では、2014年8月時点では、“Ticket booth”としていた。これは、「宝くじ売り場」の発想から使用したと思われる。

17、18共に、“TICKET COUNTER” とすることを提案する。

本稿執筆にあたりネイティブチェックを依頼した David Martin 氏によると、17は“ticket office”と言えず、18は“ticket booth”と言えないという評価であった。双方とも、建物内部にあり、建物

本来の目的と直接関係する「発券所」と思われるからである。

氏によると、滋賀県石山寺に見られる、19のような独立した、比較的大きく、所謂「事務所」的要素を有すると思えるものは“ticket office”、小さく、所謂「宝くじ売り場」的な小さなものは“ticket booth”と言える、とのことである。箱根関所跡に見られる、20のようなものは“ticket booth”と言える。また、20を建物内に設置したような、21の藤沢名店ビル内の「宝くじ売り場」（画像奥）も、“lottery ticket booth”と言える。

19



20



21



22



22は報徳二宮神社から小田原城内に入るところに見られる。「小田原城天守閣」を“Odawarajo Casele”としているが、“Castle”の綴りを誤っている。22の案内板は「右へ行くと、遊園地と小田原城」の意味である。「天守閣」に限定せず、日本語を、単に「小田原城」とし、“*Odawara-jou [-castle]*”とすることを提案する。

3. おわりに

本稿は事例報告として、神奈川県観光名所に見られる、当該名所の包括的概略説明を行う案内板を中心に論じた。

福島（2015.7）で挙げた鎌倉に見られた例の如く、当該名所の入り口近く、あるいは、発券所近くに設置されているものが多かった。

これら案内板は、本来、たまたま通りかかった観光客でさえ、当該名所に立ち寄ること、つまり、引き込むことを期待できるものであるべきである。換言すれば、リーフレットなど異なり、記述量が比較的に限られている案内板は、当該名所の魅力の記述を第一に考えるべき、と本稿執筆者は思う。

本稿は、横浜三溪園、江の島、横須賀市三笠とペリー上陸記念碑、小田原城に見られるものに検討を加えた。

福島（2015.7）に挙げた鎌倉に見られた例と同様に、日本語案内板、英語案内板の記述内容は、ほぼ、一般人が魅力に感じることで、その点は評価できる。

しかし、使用されている英文については、記述内容を一致させたいという心理が働き過ぎてか、日本文の修飾関係をそのまま英文に移し替えた結果、案内板の英語としてはネイティブスピーカーにとって「不自然」と思われる例が見られた。また、因果関係が明確にも拘わらず、時間順の並列用法ということで、“because”ではなく、“and”を使用している例が見られた。この等位接続詞の

使用が、「長過ぎる」とネイティブスピーカーに感じられる英文を作る一因になると思われる。

記述内容の具体的配列等についての提案は次の機会に行いたい。

さらに、一般的案内板の英語記述、「立ち入り禁止」、「飲食禁止」など、また、「入場料」に関するものなどにも、検討を加えた。和英辞典などで一律に記述されていても、使用される状況により異なる例などを挙げ論じた。

これまでと同様、提案した英語のネイティブチェックは David Martin 氏にお願いした。また、文教大学情報学部非常勤講師 Robert Brown 氏には助言をいただいた。

感謝したい。

註

- 1) 格調が高いことより、一般人が理解しやすいことに重点を置き、綴字法などの規則性は一般文書ほど強くない。また、設置位置、色彩など、「視覚的認識の容易さ」も含まれる。
- 2) 意味に基づく分節は、日本語学習者の便宜を考慮している。福島 (2015.7)、(2015.9) 参照。
- 3) 福島 (2015.9) において述べたが、英語圏の人々は“oo”を [u:] と発音する可能性が高い。今後、旅行会社、航空会社などのパンフレットなどに、日本語の英文字表記では「オオ」と発音される、と記す必要がある。

参考文献

- あくざわさきこ (2000) 『ふるさと再発見 神奈川県』第2版、東京：ゼンリン
- 文理編集部 (2015) 『小学3年国語ローマ字』、東京：文理
- 福島一人 (2011.1) 「観光英語 (1)：国宝天守をもつ松本城の案内板の英語」『情報研究』第44号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2011.7) 「観光英語 (2)：国宝天守をもつ、松本城案内板の英語と比較した姫路城、彦根城、犬山城の案内板の英語」『情報研究』第45号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2012.7) 「観光英語 (3)：重要文化財の天守を有する備中松山城、丸亀城、高知城、弘前城の案内板の英語」『情報研究』第47号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2013.1) 「観光英語 (4)：重要文化財の天守を有する丸岡城の案内板の英語」『情報研究』第48号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2014.1) 「観光英語 (5)：重要文化財の天守を有する宇和島城、伊予松山城、松江城の案内板の英語」『情報研究』第50号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2014.7) 「観光英語 (6)：世界遺産に登録されている広島県宮島の案内板の英語」『情報研究』第51号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2015.1) 「観光英語 (7)：日本の城郭などに見られる英語案内板の表記内容再検討と綴字についての提案」『情報研究』第52号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2015.7) 「観光英語 (8)：神奈川県の名所鎌倉に見られる案内板の英語」『情報研究』第53号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- (2015.9) 「案内板における日本の固有名詞などの英文字表記」『日本実用英語学会論叢』第

21号、東京：日本実用英語学会

ヘボン J.C. 松村明解説（1974）『和英語林集成』第3版（復刻版）、東京：講談社

上森鉄也（2012）「基礎演習でのローマ字教育」『流通科学大学教養センター紀要』第2号、神戸：流通科学大学商学部

文部科学省 「ローマ字のつづり方」（オンライン）、入手先（http://www.mext.go.jp/b_hakusho/nc/k19541209001/k19541209001.html）（2014.10.15 参照）

NAVER まとめ 「正しく知っておきたい「ヘボン式ローマ字」の基礎知識」（オンライン）、入手先（<http://matome.naver.jp/odai/2138576450486274401>）（2014.10.15 参照）

新村出編（2008）『広辞苑』第6版、東京：岩波書店

スクリーチ・タイモン、プライス・マーガレット、大島 明他編（1999）『トレンド英語日本図解辞典』、東京：小学館

柴田正昭（2010）『外国人のためのローマ字日本語辞典』第三版、東京：東京堂

小学教育研究会（2015）『国語自由自在』、大阪市：受験研究社

梅棹忠夫（2004）『日本語の将来：ローマ字表記で国際化を』、東京：日本放送出版協会

渡邊敏郎他編（2003）『新和英大辞典』第5版、東京：研究社

URL

「観光英語（1）」『情報研究』44号

<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=BKSJ440004>

「観光英語（2）」『情報研究』45号

<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=BKSJ450003>

「観光英語（3）」『情報研究』47号

<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=BKSJ470003>

「観光英語（4）」『情報研究』48号

<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=BKSJ480005>

「観光英語（5）」『情報研究』50号

<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=BKSJ500004>

「観光英語（6）」『情報研究』51号

<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=BKSJ510002>

「観光英語（7）」『情報研究』52号

<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=BKSJ520005>

「観光英語（8）」『情報研究』53号

<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=BKSJ530003>